

育苗管理特報

「健苗育成に努めて美味しいみな穂米を届けよう！」

近年の育苗期間は高温多照傾向にあることから、5月15日頃の田植えでは育苗日数が19日でも、十分な根張りが確保できます。老化苗とならないように、浸種日や播種日に注意し、育苗計画が適正となるようにしましょう。

育苗計画 ~5月10日以降の田植えにあわせて育苗計画を立てましょう！~

【育苗～田植えの作業時期の目安】

浸種開始日	催芽日	播種日	ハウス搬出日	田植日	育苗日数
4月8日	4月17日	4月19日	4月22日	5月10日	21日
4月17日	4月24日	4月26日	4月29日	5月15日	19日
4月25日	5月1日	5月3日	5月6日	5月20日	17日

浸

種

※浸種袋の色分けやラベル付けにより、品種の区分管理を徹底しましょう。
 ※浸種は出芽を揃えるために重要な作業です。次のことに注意しましょう。

- ・浸種時の水温は10～15℃を保ちましょう。特に、浸種初日は12℃程度を確保し、薬剤の効果を高めましょう。
 ⇒浸種桶は日光が直接当たらない場所（日かげ等）に置き、温度計により水温を定期的に確認しましょう。
- ・浸種開始後は2～3日程度水を交換しないでください。その後、水の交換を2日に1回程度行い、種籾に酸素を供給しましょう（流水中での浸種や頻繁な水の交換は、薬剤の効果を低下させるので注意しましょう）。
- ・浸種期間は、7～10日程度が目安です。

催芽

- ・育苗器を使用する場合は、30℃を厳守してください。
- ・芽の長さは、ハト胸～2mm程度が目安です（伸び過ぎないように注意）。

播種

- ・1箱当たりの播種量は、乾籾で120g(催芽籾で150g)程度です。

出芽

- ・育苗器の温度は、30℃を厳守してください。
 30℃を超えると、カビや苗立枯病が発生する原因となります！
- ・育苗器のサーモの作動状況を事前に確認しておきましょう。

田植時期にあわせて育苗計画で、「みな穂の米づくり」に取り組もう！

搬出

- ・ハウス搬出直後は、土が落ちつくまで水をしっかりかけましょう。
- ・被覆資材は、緑化後に速やかに外しましょう（搬出2日後が目安です）。

ハウスの温度管理

●緑化期（搬出後2～3日）

ハウス内の温度は25℃を超えないよう、搬出直後から換気しましょう。
 ただし、夜温が10℃以下になると予想されるときは、ハウスを早めに閉めましょう。

密苗の留意点

密苗は慣行育苗と比較して、①育苗日数が短いことに加えて、密苗は箱当たりの播種量が多いことから、②苗質の低下、③病害の発生の危険が高いため以下の点に注意しましょう。

育苗計画

密苗では、慣行に比べ育苗日数が長くなると、葉色の低下や第1葉の黄化に加え、移植後には2号分けつの発生低下などが見られます。一方で、密苗は育苗日数16日程度で十分なマット強度が得られることから、慣行と同じ日に移植する場合、密苗での浸種日及び播種日は、慣行に比べ4日程度遅くしましょう。

老化苗になりやすいので、1回に播種する箱数は、田植作業計画に合わせて調整しましょう。

【密苗における育苗計画の目安】

浸種日	播種日	田植日	育苗日数
4月13日	4月23日	5月10日	17日
4月21日	4月29日	5月15日	16日
4月29日	5月6日	5月20日	14日

ハウス管理

密苗では慣行に比べて軟弱徒長苗となりやすく、また、細菌性病害やカビなどの病害が発生しやすくなります。このため、密苗では、慣行以上にハウス内の温度管理（ハウス内温度が25℃以下となるよう、換気を徹底）には留意しましょう。

特に4月下旬以降の播種は気温が上昇し、苗が長くなりやすいので、搬出直後から積極的に換気を行いましょう。